

市大病院情報誌



まよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています



Contents

2016年5月
第26号

- ▶ 新病院長からのあいさつ
- ▶ 食物経口負荷試験のご紹介
- ▶ 心臓手術も低侵襲へ
- ▶ 循環器の新しい治療
- ▶ 最適な放射線治療に向けた病院の取り組み
- ▶ 「第135回 中材業務及び感染対策研究会」において研究発表会を行いました
- ▶ 「どっきり型」の救命処置研修
- ▶ 認定看護師の活動について



診療科紹介 血液内科

新病院長からのあいさつ



平成28年4月より病院長に就任いたしました、平川弘聖でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。永い歴史を有し、市民の皆さまに支えられてきた市大病院の病院長を引き継ぐこととなり光栄であるとともに、その責任の重さを実感しております。市大病院は、大阪市立大学医学部の建学的精神である「智・仁・勇」にもとづいて、市民の健康に寄与する質の高い医療を提供すること、こころ豊かで信頼される医療人を育成すること、医療の進歩にたゆまぬ努力を続けることを病院理念として、教職員一同が誇りをもって医療を提供できる病院を目指し、一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。病院を取り巻く医療環境は大きな変革期を迎えていますが、教職員が誇りを持って皆さまに安心と安らぎを与えることのできる病院環境づくりを目指してまいります。引き続き皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

病院長 平川 弘聖

『食物経口負荷試験』のご紹介



▲ 負荷試験中の診察場面

今回は小児アレルギーグループより、食物経口負荷試験（しょくもつけいこうふかしけん）のご紹介をいたします。

最近ではアレルギーをお持ちの患者さんが増えてきておりますが、その中でも子供の食物アレルギーの患者さんはどんどん増えております。「本当に食物アレルギー?」「どの量まで食べて大丈夫?」といったお悩みをかかえつつ毎日お食事されるのは不安ですね。それらのご質問・お悩みに的確にお答えできる検査が、食物経口負荷試験です。検査は、簡単に申し上げますと「アレルギー症状を誘発する可能性のある食べ物を食べていただく検査」です。3～5回に分けて目標量の負荷試験食を召し上がっていただき、定期的に写真のような診察を行います。当院では食物経口負荷試験を短期入院で行っております。（近隣の場合は外泊も可）

負荷試験スタッフ一同▼



栄養部や調理部の協力のもと、食物経口負荷試験に用いる食事は、卵アレルギーの患者さんには卵入りの蒸しケーキ、牛乳アレルギーの患者さんには脱脂粉乳入りクリームなど、なるべくおやつ感覚で食べられるものを提供できるようにしております。

毎日のお食事が少しでも楽しく安全で、必要な栄養とともに子供達がすくすく育っていけるようご協力させていただけたらと存じます。ご不明な点は、小児科外来まで宜しくお願い申し上げます。

心臓手術も低侵襲へ

本邦では年間6万件を超える心臓大血管手術が行われていますが、とくに弁膜症手術が増加しています。重度の弁膜症は放置しておけば生命予後が極めて悪く、「癌」と同じ病態ともいえます。従来、弁膜症治療は弁置換が主体でしたが、僧帽弁閉鎖不全（逆流）に対しては、自己弁を用いて修復する「僧帽弁形成術」を行うことにより人工弁は不要となっています。私は弁形成成功率99%の成績を上げています。



▲小切開での心臓弁膜症手術

通常的心臓手術は胸骨を縦切りにして正中切開を行うため、大きな創がのこる手術でした。最近では6-8cmの皮膚切開で右胸部の肋骨の間から僧帽弁手術を行えるようになってきました（低侵襲心臓手術：MICS）。これは美容上の利点のみならず早期回復が得られる点でも有利であり、当院でも積極的に取り組んでいます。

さらに低侵襲に向かって、経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）を今年1月から開始しました。鼠径部の動脈あるいは左心室心尖部からカテーテルを介して人工弁を留置する方法です。人工心肺(体外循環)や心停止を行わずに、大動脈弁狭窄症の治療が可能となりました。これまでの4ヶ月で10例以上のTAVIを行い、85才以上の高齢者にも治療が可能となっています。高齢というだけで手術ができないと判断され手術のタイミングを逸しないようにしなければなりません。多種職からなるハートチームをつくり一流の弁膜症治療施設になるために日々研鑽しています。



（心臓血管外科学 柴田利彦）

循環器の新しい治療

高齢化社会を迎えて心房細動になる患者さんの数は年々、増加しています。心房細動の根治治療として、当院では、平成27年12月より、従来の高周波を用いたカテーテルアブレーションよりも簡便なクライオバルーン（冷凍風船）を用いた新しいアブレーションが行われるようになりました。

クライオバルーンアブレーションとは

心房細動の原因の多くは、肺静脈から異常な電気信号が心房に伝導することを契機として起こります。通常、肺静脈は左右2本ずつ計4本あります。クライオバルーンアブレーションでは、一つの肺静脈入口部にバルーンカテーテル（主に28mm大の風船）を留置し、亜酸化窒素を用いた冷却を180-240秒間行うことで肺静脈からの異常な信号が心房へ伝導しないようにして、心房細動が起こらないようにします。



有効性と利点

クライオバルーンでは一度の冷却で全周性に治療が可能になるため、手技時間が短くなり患者さんの負担が軽減され（約3～4時間→約2～3時間）、有効性も従来の高周波を用いたアブレーションと同等です。しかし、心房細動の期間が長い場合や肺静脈の形状によっては、クライオバルーンアブレーションが向かない場合があります、その場合は通常の高周波を用いたアブレーションを行うことになります。



（循環器内科学 土井淳史、葭山稔）

最適な放射線治療に向けた病院の取り組み

本年4月より最新の放射線治療装置（リニアック）が稼働しています。放射線治療とは放射線を照射することで病気の細胞を死滅させる治療法です。正常組織を避けながら治療できるため、臓器の形や働きを守ることができます。今回導入した装置は、FFF（フラットニングフィルターフリー）が搭載されており、高線量率での治療が可能になりました。これは今までより短時間で治療ができることを意味します。また従来のX線によるIGRT（画像誘導放射線治療）に加え、Hexa POD（6軸カウチ）を使用することで、いっそう高精度な治療が実現できます。病院の取り組みとして、放射線治療業界での最新鋭が装備されました。

この最新鋭な環境で患者様が安心して治療を受けられるよう、部内では放射線治療専門医、がん放射線療法看護認定看護師、診療放射線技師、医学物理士等の専門のスタッフが協力、協働しています。不安や疑問がございましたら、どんなことでも構いませんのでお気軽にお声かけ下さい。最良な納得性のもとで、最適な治療提供に努めます。

（中央放射線部 市田隆雄）



第135回 中材業務及び感染対策研究会 にて発表しました



平成28年2月6日(土) 10:00~16:00
に大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で開催された「第135回 中材業務及び感染対策研究会」において、中央材料部看護職員が3題、委託業者が3題、計6題の研究発表を行いました。

研究テーマは、以下のとおりです。

1. 手術器材の滅菌方法変更への取り組み
2. 滅菌器材の事象管理に向けての取り組み
3. 適切な医療材料管理
—ユニークコードの運用—
4. 除錆処理方法の見直しについて
5. 滅菌バッグへの油性マジック使用廃止に向けての取り組み
6. 使用現場の声を反映させた中央材料部取り決め集改定に向けて—改定後の検討—

中央材料部では、院内感染防止の役割を積極的に果たすために日々、努力しており、その成果を毎年、院外でも発表し、多くの病院から関心を寄せていただいています。

どっきり型の救命処置研修

スキルスシミュレーションセンター（SSC）では学生や医師をはじめとする医療従事者を対象に医療技術向上のため各種研修を行っています。

2013年より患者さまの急変時に適切な対応がとれるよう「どっきり型」の救命処置研修を看護部と連携して開始しました。

これは同病棟の看護師2名、若手医師1名のチームが何も知らされずにSSCに集合し、その場で状況説明を受けたあと、シミュレーターを使用して救命処置を行うという実践的な内容です。

最初は突然のことに戸惑い、慌てる場面も見られますが先輩医師・看護師からのフィードバックを受け、もう1度シミュレーションをするとう動きが見違えるようになります。

受講生からは「いざとなると動けないということがわかり、普段からトレーニングをしておこうと思った。」という感想が多数寄せられています。

最近ではそろそろターゲットになるかも…と自主的に研修を行う病棟も出てきました。

急変は文字通り急に発生し、いったん発生すると少しも猶予はありません。

本院では患者さまの急変時に躊躇せず、適切な救命処置ができるよう、常に備えております。

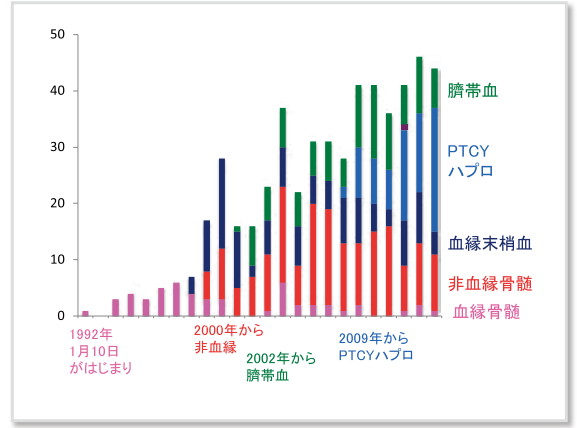
（SSC 奥幸子 栩野吉弘 竹重友美 首藤太一）



シリーズ 診療科紹介

 血液内科

血液内科・造血細胞移植科は、白血病や悪性リンパ腫などの血液疾患を治すために、抗癌剤や分子標的薬による治療に加えて、造血幹細胞移植推進拠点病院として血縁および非血縁ドナーからの造血幹細胞移植術（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植）を年間40～50例（2016年3月31日までに540例）実施しています。また、HLA半合致（ハプロ）移植などの最先端治療を積極的に行っています。造血幹細胞移植コーディネーターや看護師をはじめとした多職種からなる移植サポートチームが、患者さまに最も適した医療を提供するとともに、患者さまに納得して治療を受けていただけるよう移植相談外来やセカンドオピニオン外来（木曜日午前中）を開設し、日曜セミナーなども開催しておりますので、どうぞお気軽にご相談ください。当科ではエビデンスに基づく標準的な治療に加えて、治療成績を向上させるために新薬の国際治験、厚生労働科学研究をはじめ国内外の研究機関との共同研究や施設独自の先端的な治療も積極的に行っております。さらに、地域の血液内科専門医師ともネットワークを作り、協力して血液疾患の診療にあたっています。



シリーズ 第2回

～認定看護師の活動について～

当院では、がんに関する専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

がんと言われ医師に何を聞いたら良いかわからない、難しい言葉が多くて説明がわからない、などと感じられた時、専門・認定看護師は、がん患者さま・ご家族の皆さまが安心して治療や療養を受けることができるように病状説明に同席し、説明内容の補足説明、担当医との橋渡し役をしています。また、抗がん剤治療や放射線治療に伴う副作用の対応、つらい症状や気持ちへの相談対応、身体的苦痛・精神的苦痛（心配ごとなど）を少しでも緩和できるように患者さまやご家族のサポートをしています。

例えば こんなお手伝いをしています

- ・医師からの説明を一緒にきいてほしい
- ・どのように治療を選んだらいいのか相談したい
- ・治療をしながらの生活で心配なことを相談したい
- ・家族や周りの人へどのように病気や治療のことを伝えればよいのか悩んでしまう …など

がんに関わる専門看護師・認定看護師によるサポートをご希望のかたは主治医または看護師へお気軽にご相談ください。（相談は予約制です）



認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
 ※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>

看護部からご紹介

看護部では、一般財団法人ものづくり医療コンソーシアムご協力のもと、排液バックの目隠し目的に「貼れ晴れシート」を開発しました。その開発経過と商品紹介をテレビ番組「ちんぷいぷい」で取り上げていただきました。また、なんと！！番組を視聴されていた方から「素晴らしい、これからもがんばれ」とメッセージをいただきました。とてもうれしく思っております。これからも患者さまの思いに寄り添い頑張ります！！

発行 / 大阪市立大学医学部附属病院

<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

所在地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
 電話：(06)6645-2121 (代表)

初診受付時間：午前9時～午前10時30分
 休診日：土・日・祝日、12月29日～1月3日